



施設園芸・植物工場展  
Greenhouse Horticulture & Plant Factory Exhibition / Conference

NEWS

Vol.1

発行元  
GPEC NEWS編集室  
〒100-0013  
東京都千代田区霞が関1-4-2  
大同生命館が関ビル 4階 アテックス(株)内  
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620  
E-mail:ofc@gpec.jp

# 今夏4年ぶりの東京開催!コロナ禍でも出展申込好調!

## アフターコロナをにらみ各社最終調整

〔社〕日本施設園芸協会が主催する「施設園芸・植物工場展(GPEC)」が7月20日(水)から22日(金)までの3日間、東京ビッグサイトで開催される。東京での開催は2018年以来、実に4年ぶり。オミクロン株によるコロナ・第六波が依然として猛威を振るっているなか、アフターコロナでのビジネスチャンスを逃すまいとGPECへの出展申込は堅調にすすんでいる。

昨年は、東京五輪による会場制約で、初の愛知開催となったが、施設園芸の盛んな地域でもあり展示会は盛況裡に終了した。本年は勢いそのままに「ビジネスの中心地・東京」での開催に期待値も高く、多くの企業が出展に向けた最終調整に入った。(出展予定企業一覧は裏面)

### 展示会のリアル効果を期待

年初から急激な再拡大となった新型コロナウイルス感染症。ここまでに感染者数がピークアウトしてきた。一方で、丸二年続くこの状況は、展示会が「停滞した経済活動の起爆剤になる」との重要性を改めて示した。

緊急事態宣言下での開催となった昨年のGPEC in 愛知でも、出展企業からは展示会に商機を見出す声が多数聞かれた。「コロナでWEBサイトの充実やリモート営業にシフトをしてみたが、成果がまったくあがらなかった。やはり対面でない」と難しい。(環境制御機器メーカー)、「コロナ禍での来場だけあって、すべての方が『真剣』で内容が濃い」。(ハウスメーカー)など、逆風の状況だからこそ、ダイレクトにユーザーへ訴求できる展示会への期待は大きい。

東京で4年ぶりの開催となるGPEC2022には、今まで本格的な営業活動ができなかった分、久々の販促チャンスと捉え、出展企業にも一段と熱がはいる。



## 各社、展示スペースを大幅に拡大

### 目的を持った生産者が多数来場

同展は施設園芸農家の農閑期である7月に開催。生産者にとって設備更新・新規導入の検討に最適な時期とあって、目的を持った真剣な生産者が多数来場するのも特長だ。すでに出展を決めた各社も、こうした来場者に向けた提案に注力する。

ハウスの無人防除や減農薬栽培を提案する有光工業、新開発の省力化・省人化機器を展示予定のみの産業、最新の電動作業車や誘引資材などを幅広く提案するタキゲン製造が出展。ダイキン工業は、栽培用ヒートポンプや予冷庫を展示し、省エネ化に貢献する。また、農産物の計量・包装をトータルサポートするホリアキ、高機能農業フィルムを展示予定の住化積水フィルム、自治体・JA向けに最先端のデータ駆動型農業を提案する高知県庁が初出展。新たな顔ぶれが加わり、多彩な展示内容に注目が集まる。

### 環境制御で「稼げる農業」を実現

農業での労働力不足は、大きな課題の一つ。効率化、収穫量アップを実現するにはスマート農業技術の導入が不可欠だ。なかでも安定生産・高収量・高品質を実現する環境制御機器は、生産者からの関心が高い。誠和は、デルファイジャパンとの共同出展で展示スペースを18小間と

### 自然災害に負けない農業へ

全国で記録的な大雪が続き、農業ハウスの被害報告が相次いでいるほか、多発する台風や豪雨など生産者を悩ます自然災害が後を絶たない。ハウスの強化、補強、非常用電源の確保など対策は急務だ。



### コロナ禍で注目の植物工場

コロナ禍での衛生面の関心の高まりと、安定生産が可能な植物工場分野。食品関連事業者や異業種から新規参入を目指す企業が多い。いっぽう、事業の収益化が課題。持続的に利益を出す仕組みの構築が重要とされている。

すでに開催を決めているエスベッククミツは屋内型垂直型栽培システムなど都市型農業向けの植物工場資材を提案。ジャパンマグネットは低価格で種類豊富なLED照明や太陽光蓄電システム、省エネでランニングコスト削減に貢献する製品を展示予定だ。植物工場のコンサル

GPECには日本施設園芸協会の会員で業界を牽引する農業用ハウスメーカーが名を連ねる。すでに、イノチオグループ、大仙、渡辺パイプなど有力ハウスメーカーをはじめ、ハウスの強化に定評がある佐藤産業や、ハウス資材を総合的に提案する東都興業も東京開催となることから、スペースを前回の4倍に増やしての出展を予定。GPECだからこそできる、多くの最新鋭ハウスの展示は、来場者にとって見応えのある内容となりそうだ。

### 3月末まで申込を継続

2月末に出展申し込みの期限を迎えるが、事務局には、本紙で紹介した企業以外にも、「新型コロナウイルスの動向を見ながら検討したい」といった問い合わせが多数寄せられている。2月いっぱいには、感染者も大幅に減少することが予想され、3月以降にはコロナ感染の様子見企業や検討中の企業も出展を決定するとみられる。こうした状況から、事務局では3月末まで申込を受け付ける方針を固めている。ただし、出展スペースにも限りがあるため、会場を検討している場合は、早急に事務局へ連絡してほしいとしている。



新型コロナウイルスが日本で感染を始めたのは約2年前、2020年の1月後半だ。2年前の冬期以降に開催された展示会のみならず、このコロナウイルスの影響を受けて来た。この機関や業界団体が主催する展示会には、これを機に中止か延期を決定し、イベントと呼ばれる催しは大きなダメージを受けた。とりわけGPECも2020年開催を2021年へと1年の延期を余儀なくされた。その後、幾度ものまん延防止等重点措置まん防や緊急事態宣言を経ながらも、2020年の秋には、どうにか展示会も民間主催のものが実施されるようになった。結果はいずれも厳しい内容で、開催規模は大幅に減少、展示会場内は閑散としたものとなっ

### コロナウイルスと展示会

た。殆どの企業は、緊急事態宣言やまん防が発令される度に、展示会への出展を控えてきた。この間、展示会を販促手段として活用してきた企業は、営業活動がウェブを通じたものや間接的な販促活動に転換せざるを得なくなる。ウェブを通じたオンライン展示会や販促活動は、今まで対面営業で積みあげてきた実績までは結果がなかなか出ない状況が続いている。農業分野では、この傾向が最も強い。この2年間失われてきた対面営業を取り戻すべく、各社ともリアル展示会への期待値はますます高まっている。コロナの収束を見込み、夏開催の7月を見据えたGPECへの出展と営業活動に各社とも春先からの標準を合わせて来た。



# スマート農業をテーマにした展示会 スマートアグリ ジャパンを同時開催

## 農業の未来を担う製品・ソリューションが集結

### スマート技術で 農業の未来を創る

スマート農業の開発・普及の専門展示会「スマートアグリジャパン2022」スマート農業機器・資材展（主催：スマートアグリコンソーシアム、共催：日本施設園芸協会）をGPECと同時開催する。日本農業では人手不足解消、収量増加、経営的視点をもった営農などの課題が山積。これらを解決するAIやDX、ドローンやロボットなどの最先端技術を用いた「スマート化」には多くの関心が寄せられている。

同展は、ロボットやドローンなどの「自動化・省力化機器」、それらを構成するAI、IoT、センサーなどの「先端要素技術」、圃場環境をデータ化して収量増加・品質向上を実現する「栽培・育成管理システム」、クラウド・

アプリなどを活用した「営農支援・サービス」の4分野で構成。すでに遠隔監視技術のアイエスエーや、JA向けの営農支援システムを展示予定のインフォファームが出席を決めているほか、DXによるモニタリングや作業支援ロボット、アシストスーツを扱うメーカーなどが出席に向けて最終調整をおこなっている。

### スマート農業市場へ 参入する絶好の機会

スマート農業市場は今後も継続して成長が期待されている。今後5年だけでも毎年10%程度の市場成長が見込まれており、サブプライヤーとして異業種からの参入は大きなビジネスチャンス。

農業の展示会としての実績を誇るGPECとの同時開催で相乗効果が期待でき、生産者へのPR

や、マーケティングの場としては最適だ。異業種からは「自社の製品を農業分野に技術転用できないか」（機械部品メーカー）といった問い合わせも事務局に寄せられている。

出展申込はGPEC同様、3月末まで延長して受付中。関心ある場合は至急事務局まで。



### SDGs、労務管理など注目トピックの 「集中展示ゾーン」を新設

SDGsやESGなど持続可能な社会に向けた取り組みが国内外で加速。農林水産省で「みどりの食料システム戦略」が策定・推進されるなど、農業分野でも他産業と同様に対応が求められる。

GPECでは、持続可能な農業への転換を提案する場として、省エネ・クリーンエネルギー、原油高による燃料高騰対策機器を対象とした「集中展示ゾーン」を新設。また、来場する生産者からの要望が多かった「労務管理」など、営農支援ソリューションに特化したエリアも設置している。

#### 生産者のための

#### 省エネ・クリーンエネルギー

太陽光発電システム、省エネ型ヒートポンプ、バイオマスボイラー、再生可能エネルギーシステム、燃料高騰対策製品 など

#### 生産者のための

#### 労務管理、経営サポート、リース・融資

労務・経営管理ソフトウェア/アプリ、リース業、金融機関、6次産業化プランナー、観光農園事業コンサルタント、その他農家向けサイドビジネス（自家発電・売電事業・アフィリエイト） など

### 出展予定企業・団体一覧 (50首順 ※は共同出展、スマートアグリジャパンおよび一部予定企業含む)

(2月28日現在)

あ	か	さ	た	は
アイエスエイ	クボタ		高田種苗	ハイボネックスジャパン
IT工房Z	※クボタアグリサービス		タキゲン製造	パナソニックライティングデバイス
ITbookテクノロジー	高知県庁		タキロンシーアイアグリ事業部	バリテック新潟
アキレス	国際農業社		デンソーアグリテックソリューションズ	ハンナ インストルメンツ・ジャパン
アグリコネクト	小林クリエイト		※デンソー	ヒラカワ
アグリベース四万十			※Certhon Build B.V.	farmo
有光工業	サカタのタネ		東海テクノ	ブリッグス・アンド・ストラットンジャパン
イーズ	佐藤産業		東海物産	福井シード
いけうち	サンキンB&G		東罐興産	フルタ電機
井関農機	サンクールシステム		東京インキ	フローラ
※愛媛大学	三相電機		東都興業	ベストクローブ
イノチオグループ	サンボリ		東洋紡	ホーグス
イノバックス	シーシーエス		トミタテクノロジー	北越工業
揖斐川工業	清水種苗		トヨタネ	ホリアキ
イリテック・プラス	ジール・アベッグ・ジャパン			
インフォファーム	ジャパンドームハウス		な	ま
AGCグリーンテック	ジャパンマグネット		南勢小橋電機	三菱ケミカルアグリドリーム
エスベックミック	信州大学 先進植物工場研究教育センター		日建リース工業	※三菱ケミカルアグリアソリューション
NTTテクノクロス	※オーク製作所		ニッポー	みづほ物産
FYF	※日栄インテック		日農工業	みのる産業
オーケープランニング	新農林社		日本養液栽培研究会	明治大学 植物工場基盤技術研究センター
大阪府立大学 植物工場研究センター	スナオ電気		日本ワイドクロス	メイワフォーシス
大橋製作所	住化積水フィルム		ネボン	
オカモト	青果物選果予冷施設協議会		農業共済新聞(全国農業共済協会)	ヤンマーグリーンシステム
岡山大学 農学部	誠和。		農業技術研究会	ユニテックフーズ
※三基計装	※誠和アグリカルチャ		※Cultilene	ユビキタス環境制御システム研究会
オムニア・コンチェルト	※デルフィージャパン		※Brinkman	
オンガエンジニアリング	セムコーポレーション		農研機構 野菜花き研究部門	レイモンジャパン
ダイキン工業	セラク		のむら産業	
大仙	全国農業協同組合連合会(JA全農)		ノーユー社	渡辺パイプ
ダイヤテックス	※タカミヤ		※TAVLIT	
	※DMM Agri Innovation		※ZIDE	海外
か	※日本シグマックス		※NUFiltration	エースビュー
カネコ種苗	※リパティールポートジャパン			Changzhou Chuangyun Shading Technology

### アフターコロナを見据えた攻めの営業戦略 今こそリアル展示会の活用を!

出展に関する  
お問い合わせ



GPEC事務局 / スマートアグリ ジャパン事務局  
TEL:03-3503-7703 MAIL:ofc@gpec.jp



※前回の様子。トマト苗の自動接ぎ木ロボットや、栽培管理システムなどが展示された。